

# コーチと競技者の人間関係の比較

## ～社会人サッカークラブの視点から～

スポーツコミュニケーションゼミナール 1314012 小田川 晃大

### 1. 研究動機・研究目的

近年、様々な競技、分野、カテゴリーでスポーツを盛り上げようと活気づくのと反対に様々な問題も発生してしまっている。その代表的なものの1つはコーチ、指導者などによるプレーヤー、競技者への暴力事件や体罰などの問題である。またその中にはコーチ、指導者の意図しない形でオーバーワークや熱中症による死亡事故などが発生し、社会問題となっている。これらの問題の原因は様々なものが考えられるが、コーチ・指導者とプレーヤー・競技者の間の人間関係がその1つとして大きなものである。

本研究では、社会人サッカーチームの指導者と競技者の人間関係を明らかにすることによって、学校の教育現場や部活動指導、スポーツ指導における人間関係を良好なものにするための足掛かりになることを目的としている。

### 2. 研究方法

調査の参加者は、千葉県社会人サッカーリーグ2部のチームと埼玉県社会人サッカーリーグ2部のチームの競技者である。質問紙に回答した者は40名。そのうち欠損回答があった3名を除いた37名のデータを分析した。年齢の平均値と標準偏差は(M=21.84 SD=2.82)であった。競技歴の平均値と標準偏差は(M=13.29 SD=2.82)であった。最も短い者は1年で、最長の者は22年までの範囲であった。

調査の質問紙はJowett & NtoumanisのCART-Qである。Jowett & NtoumanisのCART-Qは、コーチ-競技者関係に関する感情・思考・行動を回答者に「自分にどの程度当てはまるか」を7段階で評定してもらうように作られている。CART-Qに含まれる評定項目は11項目であり、その中には「関わり」に関する3項目、「親密さ」に関する4項目、「相補性」に関する4項目が含まれている。

### 3. 主な結果と考察

本研究の結果は、社会人サッカークラブの競技者の感じているコーチとの人間関係は、「関わり」「親密さ」「相補性」において著しく悪いものではなく、また必ずしも満足すべきものではないことを示唆するものであった。同じ質問紙を使用した日本の高校サッカー部のデータや日本の高校柔道部のデータとの比較においてはコーチとの人間関係は比較的良く、イギリスのデータとの比較においてはコーチとの人間関係はやや薄いということが確かめられた。

コーチの側から競技者との関係を見てみると、人間関係を深めることができない要因に、コーチの置かれている状況や社会環境が一因と考えられる。学校部活動におけるコーチは職務上、教職員が担い職務の1つとしてスポーツ活動を指導している。競技者は生徒である。教職員と生徒という学校での関係の中で、教職員の生徒との向き合い方や姿勢が影響を受ける可能性は十分に考えることができる。一方、社会人サッカークラブに所属しているコーチの状況は学校の教育現場と大きく異なっている。まず、彼らは学校の教職員ではない。また、競技者も学校の生徒ではなく、ほとんどが社会人、もしくは大学生である。社会人サッカークラブのコーチと競技者は学校部活動のコーチと競技者のように他の型（教職員）の人間関係の影響を受けない。

また、高校柔道部との比較においては柔道という個人スポーツ種目とサッカーという集団スポーツ種目の練習形態の違いなども要因に考えられた。

#### 4. 結論

本研究では社会人サッカークラブの競技者が感じているコーチと競技者の間の人間関係がCART-Q(コーチー競技者関係質問紙)によって調査された。その結果、社会人サッカークラブの競技者の感じているコーチとの「関わり」「親密さ」「相補性」のいずれにおいても低くはないが満足できる高い評価点を得ることができなかった。同じ質問紙を用いた日本の高校サッカー部との比較においては、社会人サッカークラブの方が高いという結果が得られた。また日本の高校柔道部との比較においては若干社会人サッカークラブの方が高いという結果が得られた。しかし、イギリスとの比較においては社会人サッカークラブの方が低いという結果が得られた。この人間関係の結果が、コーチの置かれている状況によるものなのか、競技性の違いによるものなのか検討された。

#### 5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の作成にあたり、多大なるご指導とご指摘をいただきました、指導教官の伊藤真紀先生に深く感謝致します。また、お忙しい中、インタビュー調査に協力してくださった社会人サッカークラブのみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。